

# タウンミーティング2022～若者が考える魅力のあるまちとは～

## 意見交換要旨

### ● 日 時

令和4年7月27日（水） 10：40～12：10

### ● 会 場

兵庫県立大学姫路工学キャンパス

### ● 参加者

清元 秀泰 姫路市長

内平 隆之 兵庫県立大学地域創造機構教授（司会進行）

学生 27名

### ● 意見交換の主な内容

#### 【市長への質問】

（学生） 姫路市を盛り上げるためにということだが、若者は、景色が美しくSNSやインスタ映えする等の理由で神戸市を訪れる。姫路市の場合は、姫路城がすごく有名だが、それだけでは若者が集まってきにくいと思う。例えば、この景色が美しいというように、もうちょっと宣伝して、若者に伝われば、たくさん来てくれるのではないかと思うが、どうか。

（市長） すごくいいご提言だと思う。若者がSNSにあげるのは、姫路城の朝夕の姿とか、そんなところばかりではない。こんなパフェを食べたとか、映える食事とか、ストリートダンサーがいるとか、トータルで文化度が高いものというか、気づきみたいなものを、若い人たちに探してもらえるようなまちづくりが大事かもしれない。もっと若者等の投稿が増えるような仕組みをつくれればと思う。

（学生） 市長が学生時代に、特別に力を入れてやっていたことや印象に残っていることは何か。

（市長） 実は小学校3、4年生ぐらいから、田んぼを母親と一緒に耕作していて、高校を卒業するまで朝4時に田んぼに行き、田植え稲刈りは3日ずつぐらい休みを取らせてもらって、ものすごく農業に力を入れていた。しかし、何か手に職つけなきゃ駄目かなと高3くらいの時に思って、それで医者になろうと思った。それ以外に、実はバレーボールをずっとやっていた。

（学生） 医者になってから市長になられたが、医者としてやってきたことが活かされたことはあるか。

（市長） 医者になって市長になって役に立ったことは、例えば福祉とか医療とかのことである。医者になっても、最初の頃は小豆島や僻地の往診など、あまり設備の整っていない診療所、電気はあってもCTとかがないようなところでやっていた。市長になってみると、僻地医療のこととか、特

に今回の第7波のように、コロナ患者が1日1000人近くいると、個々のケースを見て、公衆衛生的にどこにポイントがあるかが予見でき、早めに対処しないといけないと先回りができる。特にコロナについては、医者だったおかげで、報告を聞いて説明を受ける時間が短くできた。

#### 【学生のライフプランについて】

(学生1) 私は将来、地元の宍粟市を1回出たいと思っていて、姫路や神戸等のまちに出てみたいと思っている。宍粟は食べ物もおいしく、人も優しくて自然いっぱい、魅力的なところはたくさんあるが、交通の便が悪く、バス代も大学まで通うのに高い。暮らしてきて少し不便だと思ったり、納得いかなかったこともあるので、1回まちに出て見てみて、また戻れたら戻って、働きたいと考えている。

(市長) まちへ出て行く。私はすごく大切なことだと思う。よく、姫路から人が出ないように人口が減らないようにしろと多くの方が言われるが、私自身も姫路にずっといたかったというよりも、何が将来したいのかという目標を定めて姫路から出て行き、姫路よりもっと田舎の交通の不便なところにも行った。仙台とか東京にいた時は便利だと思ったが、根っここの部分はずっと姫路にあった。しんどいなと思っても、例えば川遊びしたことや蛸を捕ったこととか、米がたくさん取れたときの喜びっていうのが、いつかあそこへ帰りたいたいという思いにつながっていると思う。やっぱりそこが根っこだから、地元のすばらしい自然とか、人の触れ合いをもって、いろいろ旅すべきだと思う。子どものころの行事体験って大事だから、行政は、小中学校を健やかに楽しく過ごせる環境を整備し、20年後にUターンしてもらえるようなまちをつくるのが大事なことなのかなと思う。

(学生1) もちろん不便を感じることもあるが、私は宍粟市が好きだ。今は祖父母と暮らしており、祖母が病気で介護の問題ですごく困っている。子どもの減少についてはもう、何か本当に大きなことが起きないと止められないと思う。姫路市は福祉や医療に力を入れられていると今までの講義でも伺ったので、もっと調べて、姫路だけに留まらずにいろんなところに行きたいと思う。

(市長) 医療とか介護のことは、考えるときりがない。私が人生設計を考えた皆さんと同じぐらいの時には、親の介護は、子どもが見るべきだ、みたいな流れがあった。その点アメリカはすごく合理的で、65歳くらいになったら、みんな老人ホームに入って、同じ世代の人たちと交流している方が楽しいっていう人たちもいる。私の同級生の中には、大企業をやめて姫路へ帰ってきた人もいる。本当はそういう福祉とか医療は全体として考えるべきで、個々の、特に例えば結婚した女性が仕事をやめて、義理のお母さんの世話をするなんていうのは、社会としては成熟していないんじゃないかと思う。税金は上がるけれども、介護される側も、介護の専門家にリハビリをしながら見ていただく方が生き生きしていることがたくさんあるという現実を知るべきかなと思う。

(学生2) 私の将来の夢、目標は、プラネタリウムの学芸員や天文台の研究者になることだ。私の地元

は、すごく田舎で、星が綺麗に見えるところだ。それで私は星に興味を持って、家族がプラネタリウムや天文台によく連れて行ってくれたことで、子どもに将来の夢を与えられるような、プラネタリウムの職員等になれたらいいなと思うようになった。兵庫県立大学の理学部では、兵庫県立大学の持っている西はりま天文台で、4年生で研究をすることが可能なので、この大学を志望した。

(市長) 私も家の2階で寝ていても、パッと起きて外を見て、カシオペヤ座の動きを時計代わりにしていた。うちからは、だいぶ見にくくなったが、ミルキーウェイとか、夏になると銀河が見れていた。天文台にもよく行った。

宇宙に興味を持つということは、遠いところの世界のようだが、自然科学一般に興味を持つことだ。ご両親も含めて、その地域の人達は、あなたを自然を愛する子どもに育てられたから、すごいと思う。ぜひ、子どもたちに夢のある話、どんどん膨らませてあげてくれると嬉しい。

(学生2) 最近、全国的に科学館やプラネタリウムが老朽化でだんだんと数が減っているという話を聞いた。ぜひ姫路市は、姫路科学館や星の子館を長い将来にわたって存続していただきたいと思う。

(市長) 体験型の勉強をした人の方が、応用性のある学びを習得する。ただ単に学校の教科書を読んで、いろんな法則がわかることよりも、なぜこのように星が見えるか、惑星の動きをガリレオさんはどういうふうにして追いかけたんだというのを星の子館で勉強してもらいたい。私は科学館にある地球の自転を示しているフーコーの振り子も大好きだ。時間があるときに振り子を見ると、なんだか私たち地球の上で生活しているんだなと感じる。科学を感じられる施設ってとても大事だと思う。

(学生3) 私は応用科学工学科にいて、都市鉱山の問題が気になっていて、金属リサイクルの方面に進みたいと考えている。金属リサイクルは、利益を上げるために、いかにうまく金属を収集するかというのが課題で、自分の目で見て、考えていきたいと思うので、将来的には大阪や東京に行きたいと思っている。兵庫県立大学にも金属関係でも有名な方も結構いらっちゃって、千葉大学とかにもいらっしゃるが、大学院も考えていて、姫路はいい場所だが、離れることになると思っている。

(市長) 積月性(しゃくげっしょう)という江戸時代の人が、「人間は至る所青山(せいざん)あり」という有名な漢文を残している。墓場なんてどこでもいいじゃない。それぐらいの思いで、学を志して東京に、お江戸に行くぞっていう。私は、香川大学に20年弱いて研究をしていたが、自分の研究をさらに発展させるため、東北大学から声がかかった時に、これも何かの運命なのかなと思い、行った。先ほどの都市鉱山の回収技術を新たに手にしたい、そのためには大学院に行ったり先端の研究をしたいと気持ちが燃えていたら、やっぱり行くべきだろうと私は思う。研究する中で、自分がやりたいこと、興味の対象も変わってくるかもしれないが、自分の興味のある研

研究室を選んで、私は行って欲しい。そしてできれば姫路に帰ってきて、姫路に還元してもらえたら嬉しい。

(学生4) 私は、将来は地元の市役所等に勤めて、まちづくりに力を入れたいと考えている。この夢は、実は高校生の時に決めたことである。私の住んでいる加西市は普通科高校が一つしかないが、その分地域の人々が温かく高校の活動を応援してくださっていて、フィールドワークとかボランティア活動、研究活動の会場として、受け入れてくださっている。私は高校時代から鶴野飛行場のガイドツアーをしていて、今も継続している。最初は、地元は田舎で交通の便も悪いと思っていたが、高校時代の活動を通じて、人々の温かさや、すごく貴重な戦争遺跡があることに誇りを持つようになって、今後はそういう、遺跡の保全活動に力を入れたいと思うようになった。地元に住み続けたい理由は、まちが温かくて、いろんな活動、学生が行う活動を受け入れてくれる環境があるっていうところだと思う。

(市長) 本当に素晴らしい。私の祖母は加西市の出身で、鶴野飛行場も自転車で昔行ったことがある。当時は、田んぼの中の荒地地だったが、西村市長が、こんな素晴らしいものがあるから埋もれさせてはいけないと。姫路市と加西市は「空がつなぐまち・ひとづくり推進協議会」の構成員であり、平和のまちづくりで連携している。あまり知らないかもしれないが、姫路の京口駅あたりにあった川西航空機という会社が、紫電改を作り、作った紫電改は、部品を牛に引かせて、加西市の鶴野に持って行って、そこで飛行訓練させた。それを大分県の宇佐市で全国の飛行隊が合同訓練を行い、そのまま鹿児島県の鹿屋市から特攻隊として出動した過去がある。若者の命が失われるから、ずっとネガティブなイメージがあったが、加西市長、宇佐市長、鹿屋市長と話して、だからこそ理不尽な戦争をやっちゃいけないと。それで、加西市では今、鶴野で気球をいっぱい上げて、空からこのまちを見て、平和を考えてもらうイベントを実施している。こういうことを風化させてはいけないと共感してくれる人がたくさん増えること、また鶴野の近所で、この遺産を死ぬまで見守っていきこうって、それがシビックプライドの醸成だと思う。そういう夢のあるプロジェクトを姫路ももっと考えていかなければいけないと思う。

#### 【若者にとって魅力的なまちづくりについて】

(学生) 私は今、明石に住んでいて、まちにとっても魅力を感じている。何がすごい魅力なのか考えたら、人の繋がりが大事だとすごく思う。私は中高で吹奏楽をやっていたが、明石市内の各中学校、高校はふれあいコンサートをしており、駅前とかショッピングセンターで、ミニコンサートをして、近くのおじいちゃんおばあちゃんや自分たちの家族を呼んだりして聞いてもらう。そこですれ違った人が足を止めて聞いてくれたり、コンサートが終わった後に、よかったよってくださるおじいちゃんおばあちゃんがいて、すごい人の温かみを感じる。若者だけではないと思うが、特に魅力的なまちというと、人の繋がりをを感じるのがいいのかなと思った。

(市長) まさにそうだ。明石はコンパクトにまとまっているので、明石の駅前にいろんな施設が集約すると、そこにいろんな方々が世代を超えて交流できる。姫路でもふれあいコンサートや地区のコ

ンサート等はあるが、市域が広く、地区の思いが強いから、バランスが難しい。都市の構造的な問題も含めて、何とか世代間交流ができるようなイベントを考えてもらえるような仕組みを作っていきたい。

(学生) 私は大阪の豊中に住んでいる。魅力もそれなりに感じていて、図書館もあちこちにあって使いやすいし、まちの景観も綺麗で治安もいい。交通の便も、梅田まで大体15分ぐらいで、したいことができるっていうのは、強いと思う。しかし、人生において自分でやりたいことが増えたときに、「まちの魅力」は優先順位が結構下になると思う。世帯を持っていた場合、家族の意向もあるので、そこを説得する材料があったらいいと思うが、何があると思うか。

(市長) 本当に、どういうふうにしたら選ばれるのかというのは非常に難しい。やっぱり住むところを決めるとき、本人の思いだけでなく、家族の意見もあり、子どもの未来のことを考えてって言われると、難しい。姫路も何かこう移住してくるための100のいいポイントみたいな冊子を作ろうというアイデアもある。姫路に住んだらいいことあるあるみたいなことを、皆さんにもあったら提言していただき、冊子を共同で作ってもらえたら助かる。

(学生) 私たちは大きく三つ考えた。

一つ目は、子育ての支援とか、あと町内会での若者の意見を反映しやすい環境を整えるのがすごく大事だと思う。

二つ目は、若者が活躍する機会を与えることが大事だと思う。例えば、有名私大のキャンパスを誘致する。もっと若者も増えるし、盛り上がることもできると思う。

三つ目は、姫路にしかできないものを作るのはどうだろうかと思う。今あるものでもいいし、新しく作るものでもいい。例えば仮想空間だけの遊び施設を作ってみたらどうかと思う。例えば遊園地だと、ジェットコースターとか設備投資のお金はかかるが、仮想空間のための機械だけであれば遊園地ほど場所を取らないし、VR（仮想現実）に強いベンチャー企業もたくさんあると思うので、そうした企業をもっと誘致すれば、人口がさらに増えるのではないかと思う。

(市長) 子育てしやすいっていうのは一つあると思う。それから、やはり若者がコンソーシアムを作って、提言する場がちょっと少ないかなと。若者が活躍する機会がないから、若者の文化が盛り上がらないということだが、浜手の方に行くと、灘のけんか祭りや村々の祭りが一大イベントになっており、祭りがあるから帰ってくるっていう人たちもいる。まさに自分たちがやっているという実感があって初めてまちは盛り上がる。

VRミュージアムについては、東京のベンチャーに、コロナ禍で人が少なかった姫路城の内部を全部VR空間として撮影していただいて、今ホームページで公開している。姫路城の弱点は車いすの人が登れないことだが、VR姫路城の中に入って登るとか。また、普通に登るのではなくて江戸時代の天守閣に登って途中で忍者が襲ってくるとか、幽霊やお菊さんが出てくるとか、そういうVRやAR（拡張現実）のコンテンツにしたら面白いかもしれない。ただ、そういう企業が姫路にはあまりないみたいで、いただいたアイデアは大変面白いので、いろいろ他のベンチャーとも相談したい。

(市長) 皆さんの全部の意見を聞きたかった。若者の視点で貴重な提言をいただいたことは、非常に嬉しい。

都市の活力は、いろんな部分があると思うが、やはり地域性や世代間のバランスも大事なかなと。安定した人口構成をもって、持続可能なまちをつくりたいというのが、姫路市の目標だ。姫路は、北には森林があり、南には離島があり、海・山それから工業もあるし、農林水産業の田んぼや果樹園もある。そういう意味では日本の縮図と呼ばれている。

脱炭素の時代に、環境に明るくなっている若者たちに、姫路もいいねって選んでいただける、そんなまちも非常に大事だ。

また、男も女も能力に応じて評価されるべきで、男の人が育休を取り、女の人が子どもを沢山産んでも、ちゃんと就労して、生まれた子どもを行政がしっかりと応援して育てていける。そういう政策に、前向きに取り組んでいきたい。